

和朝
今昔物語

卷十一
世俗部



今昔物語部 十一目録

○世俗傳

- 一 安房守文室清忠落冠語 あはのりきうんやの
- 二 伊豆守小野五友目代語 づのりきとりのりうもむぐもくごの
- 三 中納言紀長谷雄家鬼語 なかのえきせかたのあきのあきの
- 四 大藏右輔藤原清廉怖猫語 おほのくらうのふじのあきのあきの
- 五 三善春家忍蛇語 よしののつばな
- 六 筑前守藤原章家侍頼方錯語 むねのりあきのさかひのりあきのあきの
- 七 右近馬場殿上人種合語 うぢのうぢ



今昔物語(三)十一
才才車(一)

今昔物語 倭部 十一

○世俗傳

一 安房守文室清忠落冠語

今いひしり。安房守文室清忠 按姓氏錄文室真人天
武天皇皇子長屋王之

後也。やうふ。外紀にそあり。此の事かろふ。其うも終

片に。面いそりぐらうそ。氣徳氣み目とんらう。又出羽

守大江時棟 大江系圖
時棟不見 とつ者。是く同時よ外紀あり。

腰屈して呼吸づとらるものなり。けあ人除目のとら。

陣の定めよ陣乃清守めりして。清忠時棟をび

る。箱文をそはつらん。時棟笏ぬらして。もとまへ

今昔物語 ○和朝卷十一

多し。とて。清忠が冠かんぼうよわて。打押うしお守まも上かみを郵ゆうこれを
見みて。多おほのぶ。さく。う。り。は。清忠はよして。さ。り。落
し。冠かんぼうをさう。し。つ。つ。つ。て。箱はこを。の。は。り。つ。じ。り。多おほ迹あと
去さり。時棟ときむねの奇あま異い氣げち。ら。秋あき。て。あ。れ。さ。り。つ。り。
このころ世のよ。い。の。よ。い。び。ら。を。さん。さ。り。び。あ
く。も。ふ。け。ら。母。年。む。ら。ま。で。や。り。な。ば。か。く。さん。り。
ま。は。え。ら。や。ち。り。

二 伊豆守少将み友目代語

今いむ。小冊み友 小野氏 橘姓 系圖 無所見 といふもの。和紀の旁

として伊豆守み友とあり。伊豆國のあり間目代あり

あ。は。目代り。と。と。と。者。や。わ。る。や。東。西。よ。り。あ。を。を
く。る。ふ。あ。る。人。い。く。駿。河。國。み。才たか。く。げ。さ。ま。人。育
て。も。み。と。う。く。書。者。あ。り。と。守。これ。を。圖。で。ま。げ。と。使
を。は。く。り。と。よ。い。奇たら。守。ん。ら。年。六。十。六。つ。ら。の
男。乃。大。は。ぬ。り。と。宿。德。氣とくあり。公。の。や。ど。い。知ちと。見。行
と。ら。り。の。目代形かたちあり。も。は。い。ら。み。書。者。と。て。か。さ
て。し。ら。げ。く。ら。り。み。筆。が。ら。く。見。と。ら。り。つ。と
ま。ん。の。い。ん。と。て。つ。ら。ゆ。り。り。ら。海。法うゑの。文ふみを。出。し。ぬ。
あ。ら。り。ひ。ら。み。ひ。と。と。と。と。筆。盤ひらと。ら。み。て。ゆ。く。と
あ。く。か。り。程。よ。作。と。り。守。り。わ。ら。あ。ら。り。と。目代



かつて万の事とてさしをて。いとはまをてついでいづらぬ。二
 年ぶらりにちりぬれども。守が氣色にちがふま
 ようげぬるやとさぬくはぬくともこりぬれ。守を
 大い感^えじて。圓の内^うて。さうぶとさぬぬぬ教^しを
 をせがり。ういば館^{くわん}の人^{ひと}も。圓^まれ軍^{ぐん}にもむき^むき
 われた者^{もの}ども用^{もち}もさうぶ。隣^{りん}圓^まもぞりぬ。これ日代
 かりと聞^きえさう。さうあ^ありある日^ひ。け日代^{にち}守^しがさ
 居^いく。文書^{ぶんしょ}もぬ多く取^とり教^し下文^{げん}もぬ書^かせ。そ
 まに中^{ちゆう}とれ^れうらぬ。傀儡^{くわいらい}子^こどもゆわく。守^しが館^{くわん}母
 本^{ほん}く。なまさらちびて。守^しとさういぬぬうた。守^し

一、みくわをよぶに。彼目代。傀儡子があつた。おかし
う。これにて。度拍子に。官公指。守りまじかる。と思
ひ。く。見。括。され。傀儡子の目代が。氣色を。と。て。結。文
み。う。て。い。と。や。さ。ば。目代。は。け。お。う。ま。か。り。て。お。く。の
び。う。お。を。出。し。て。傀儡子が。奇。ぬ。く。と。く。う。い。ま。り
守。り。し。て。わ。ち。と。こ。は。い。う。ふ。く。と。う。殺。し。目代。を。公
け。ど。う。ら。す。と。し。れ。事。つ。と。な。が。て。せ。い。の。ま。
う。終。ら。し。て。お。し。り。な。れ。ば。傀儡子。と。も。い。つ。く。う。と。い
く。中。う。り。館。の。老。ど。い。これ。を。み。く。奥。ド。ワ。い。て。の。じ
つ。う。る。殺。し。目代。と。ら。て。逃。ま。り。守。り。し。る。と。わ。ち

が。り。て。傀儡子。と。も。い。つ。う。り。事。と。問。は。傀儡子。と。の。い
と。く。び。人。つ。く。ゆ。じ。と。な。傀儡子。は。仕。り。て。作。る。の。公。書。
文。を。後。算。と。習。く。傀儡子。と。や。ち。け。ん。の。身。と。女。の。
團。乃。清。目代。と。あ。り。終。と。あ。り。ぬ。と。い。は。お。し。り。な。れ。ば。
を。つ。と。わ。り。ま。じ。る。事。も。中。う。ま。だ。く。清。前。と。て。こ。い
と。中。作。ち。り。や。し。け。る。こ。れ。より。て。館。の。人。の。團。乃。事。
と。傀儡子。目代。と。み。づ。き。を。つ。く。い。ま。り。お。し。り。な。れ。ば。
け。と。ど。い。守。り。不。便。と。ら。て。お。し。り。な。れ。ば。い。ま。り。と。う。ら
と。え。し。り。な。れ。ば。

三 中納言紀長谷雄家鬼詰

今いじう。中納言紀長谷雄しつ子悟士へ。才賢く智
 廣く。厚んでこれと人として考もなし。陰陽の方をな
 せしむる。さうさう。さうさう。あつた。物もつて。家の垣
 を越く。尿とさけさけ。あつた。あつた。あつた。あつた。
 て。う。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 但一人を祀し。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 長谷と。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 多。学生どの。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 て。塗を。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 か。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

く。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 ら。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 少。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 う。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 既。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 の。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 櫛。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 戸。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 櫛。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 ま。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

ちり人を抱くもつとあまのよあはれとてさむらひ
とらふさまをりしをわがわがりけりてさむらひ

四 大藏大輔友原清康怖猫語

今へひつ。大藏大輔友原清康といふ者ありしが若
生の前とてやわろそん猫とていふ。清康がゆ
いりありていひさきもがりの猫取出し見せしむ
いり程大物の用事ありていひさきもがりの猫とて
さむらひとていひさきもがりの猫とていひさきも
とていひさきもがりの猫とていひさきもがりの猫
り田狐かかく作くいひさきもがりの猫とていひさ



彌公初代

清通二男從四位下
右馬廐木工介藏人

大和守なりしが其國乃

官物を清廣ささづりたりしに捕公いつりてせらるりと

せらるるも吾下の田令入ぬとあはれ諸司旁の五位女

てゑるにせらる者ありしに既下とて下とて事なりも

あはれさりとてゆるぐとて是はいつとて付あはれいづとて

あはれしが不圖あはれて吾らありしに清廣ありしが

幸とあはれし侍所宿直壹屋二間ごうりありあり

清廣とよいへて遣戸を外よりけりしとて清廣の家

よりいませあはれいて國ゆべと事ありとて奥の方より

よりせらる大和の任とてぬ今年ごうりけりあはれいづと

して官物の沙汰をば今年まで延引とてせらるあはれしに

清廣其事より依て園ごうりの事なり依りてよん城

守の事と沙汰依り依間事あはれておそまわり

ゆり今年れ秋の時ありとて今年少の事より

依りていづいれあはれして度々依をせらるるも

口ねり依りて見より歸るべ依りて東大寺

依り内よりあはれしにたわんとはいづとてあはれしに

今年ごうりありあり大和の官物をばつと事なり

す我々の天の分地はかよひしに中よりありしに

はるの事よりあはれしに今年ごうりありしに

の事ぞとらばうらまはるるをいひて。頬をく居り。
守りて。室をうらまはるる。帰らば。使わたり。
今ぞ。いふ。今。其。は。は。ま。ま。と。い。ふ。物。は。さ。
ぶ。ら。う。だ。う。の。帰。ら。ば。と。い。ふ。清。康。の。ゆ。ら。と。帰。ら。
月。の。光。は。う。ら。ま。ま。と。い。ふ。守。り。の。使。わ。り。て。
あ。ら。う。と。い。ふ。び。ら。ゆ。ら。ま。ま。と。い。ふ。證。を。
物。と。い。ふ。清。康。何。れ。ま。ま。と。い。ふ。年。一。と。い。ふ。罷。
降。て。文。書。よ。つ。と。い。ふ。は。は。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
あ。ら。う。と。い。ふ。其。時。守。り。を。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
ま。ま。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。

の。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
物。と。い。ふ。何。れ。の。ま。ま。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
あ。ら。う。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
を。何。れ。ま。ま。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
居。ら。う。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
中。の。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
眼。赤。く。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。

してあぐね。又日向の中をちろちろ猫みちれば。まきを入る。この
とれは清庵。編舟より大汗あぐりて。ま眼よりあまご
とけくこき落して。字よ向いて。びんごとくせせりり。
あつらひめられ。猫壺屋のうらめ入く。清庵が居るは
た右にけし。足は清庵。氣色かしく。あまごのく
せし。あまごのく。守これる。あまごのく。あまごのく。
竹をよびて。遺戸の竹よけ。あまごのく。あまごのく。
の猫の方へ。あまごのく。清庵汗水。あまごのく。
あまごのく。あまごのく。守これる。あまごのく。あまごのく。
あまごのく。あまごのく。清庵。あまごのく。あまごのく。
あまごのく。あまごのく。清庵。あまごのく。あまごのく。

あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。
竹をよびて。視帝とあまごのく。あまごのく。あまごのく。
守清庵。あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。
あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。
あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。
あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。
あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。
あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。
あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。
あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。
あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。
あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。あまごのく。

稲米叔と種物狐。立百石が方よ下文を書き。守は後一
くし。下文をぬぐ。清原狐出でて。下文と即字にむ。を
清原狐具して。宇多那の家よはらりて。下文のまら
あしぐり。下文をそ。そし。ふ取ぐり。清原が猫よ。せ
ぬを。嗚呼の事と。ん。下。大和守。捕公。細長。の。ぬ
め。は。松。あ。ら。る。ち。る。う。ま。あ。ん。か。り。も。ら。ぬ。倍。つ。こ。え。こ。ら。こ

五 三善春家忍蛇諾

今いむ。と。忍。女。こ。三。善。春。家

姓氏録曰三善宿祿百濟
國造右大王之後也

や。い。り。あ。わ。り。お。し。い。蝦。蟻。う。て。や。青。き。ん。さ。い。り。て。蛇。と
お。も。れ。ら。る。あ。ら。う。た。夏。は。か。り。ふ。津。原。の。辰。こ。の。と。も。れ。

ふの本ぐり。忍。忍。人。春。達。こ。こ。人。ひ。て。と。び。み。ら。る。こ。の
春。家。も。か。ら。り。その。こ。り。う。ら。り。こ。ん。だ。う。り。の。鳥。蛇。ひ
ゆ。ら。る。若。き。の。そ。れ。ん。よ。ま。き。取。と。あ。り。に。ん。中。こ。と。れ。だ。
さ。も。た。ち。る。蛇。片。う。ら。ま。れ。よ。青。き。う。ふ。ま。き。取。こ。ら。ま。地
敷。色。い。ん。さ。り。ら。る。蓋。の。中。に。ぬ。ぐ。お。中。く。を。え。ぐ。り。に
あ。を。出。て。ま。ん。と。さ。け。び。く。ぶ。ぐ。ん。と。あ。け。ら。が。二。度。女
と。れ。わ。び。く。し。て。ゆ。た。あ。ぐ。り。皆。狐。ち。ゆ。む。と。津。原。の。東。乃
門。より。這。て。出。く。北。へ。り。一。条。より。西。洞。院。まで。そ。れ。り
南。よ。け。つ。た。を。こ。び。ぐ。土。師。門。の。お。ち。より。あ。入。ら。る。妻。子。だ
こ。は。い。ら。る。事。の。あ。り。ら。る。と。と。人。も。物。も。出。さ。ぬ。

袋末迄もさうだ。うづよゆへにおもふとばおひより
 てどれおもさう。人づらもあつ。湯をひめそびども
 齒垢くひあをきそり。身の内火の中うに熱さる。素子
 肝をきして。お中じところ。お宮の雑色一人。踊り
 流きておりし。お中じところ。お宮の雑色一人。踊り
 物ぐおりし。お中じところ。お宮の雑色一人。踊り
 どもいどおゆんと。お中じところ。お宮の雑色一人。踊り
 後、岡つまを。退るともあつ。お宮の雑色一人。踊り
 ぬ。大踏を。お中じところ。お宮の雑色一人。踊り
 町と。お中じところ。お宮の雑色一人。踊り

ちろりしける。そのら一月ごうりあつ。春家海殿よ
 あり。お中じところ。お宮の雑色一人。踊り

六 筑前守藤原章家侍頼方錯謬

今いひし。筑前守藤原章家侍頼方錯謬
堤中納言兼輔四代
孫豊後守義貞嫡子
從五位下

ちろりしける。そのら一月ごうりあつ。春家海殿よ
 あり。お中じところ。お宮の雑色一人。踊り

家人もそのくひたるに。茶室の合あひたる下くだし。侍さむらいども
 合あひてくくひく。料方が許ゆるはぬく。ささくさく己おのれが器うつらよりけり
 ちせ。合あひらんとて。くくらら程ほどく。料方直の器うつらを取と
 る。己おのれが器うつらよりとて。けりけりとて。ままの器うつらたがり
 ぶぶくくと。かかととくくと。侍さむらいども。これこれのの器うつら。湯ゆ器うつら
 ちちくく合あひつるつるやや。其そのくくたたままのの器うつら。ははららくく
 ちちのの器うつらを。其その湯ゆ器うつらへ吐つくく。其その器うつらちちくくののつつ
 ちちくく。ささくく侍さむらいども。ささくくくく。見みつつるる。くくららくくとと
 ちちくくのの器うつらを。器うつらよりとて。くく。ささくくのの器うつらよりより
 ちちくくのの器うつらを。器うつらよりとて。くく。ささくくのの器うつらよりより

ありとやんがらけりてとて也

七 右近馬場殿と人権合詰

今いまのの後のち。後のち一条いちじょう天あま皇みかどのの侍さむらい代しろり。殿とのと人ひと権けん人にんおののく
 ちちははりりををて。持も合あととははららりりくく。二ふた人にん乃すなは頭かしらありあり。右みぎ
 兵へい部ぶ郷ごう右みぎ京きやう重おも重おも尹いん。懐なつか忠ただ男おとこ太おほ宰さ
 報ほう夜や。西にし宮みや左ひだり大臣だいじん高たか明あきら孫まろ俊とよ賢さとし男おとこ中なかつ納のう言ごん
 後のちいいちちののいいひひををいいひひととくくららみみし。日ひははららぶぶととて。北きた野の
 乃すなは右みぎ近ちかのの場ばととて。右みぎへへとと由よしははららゆゆして。其その方かた人ひとととも。世よ
 のの中なかつににおおかかららぬぬのの瓜うり。系けい田でん舎しゃちちくくととて。瓜うりははららくく。肝かんをを
 ばばよよいいて。ちちくくああららままりり。月つきははららぶぶととて。程ほど也なり。殿とのと人ひとはは

中は落路の舞人乃。面影とちねがうらむせをせむい
ふまると世の人とくひくろ。のれらにのみまふのむい
よら。うねいばるもあちかりとさん。せううはひら
やちり

今昔物語十一

懐柔のおうくまこれにひまきせて。枯菴をたかひにらる。せ
お柔と片ひぐこに下腰し。せまを。袴ハ踏合をそ。稽柔
乃やうたる女牛み結鞍といふもの。とをむく。う純よ
のせ。あて出い。ら。公忠これをとんく。まよつらて。由やれ
ぬ柔のた。あ。あ。ま。は。と。う。は。取。取。と。は。う。と。い。て。
と。と。く。入。わ。を。何。く。た。の。方。み。公。忠。が。喚。く。入。る。と。み。て。
ひ。み。多。く。た。知。つ。と。相。撲。乃。肩。て。入。ら。ぬ。あ。ご。ら。る。
み。い。く。け。く。と。同。ぶ。右。の。方。み。孔。を。を。あ。ぬ。く。あ。
落路の樂ひ。て。落路乃。舞。を。出。た。り。と。より。揚。負
乃。舞。あ。る。と。ま。た。た。り。と。陵。主。の。舞。を。は。ら。む。

今昔物語の甲用卷十一

くらげけきどもいまだ事なごころんぐく落路狐出
 きばなよ何せらるるぞととい合るるふ国白敷世ひ
 えり。女東れ中りほく落路けけるが。落路の出る狐
 奇懐ちりとせがくわし人をちくごの落路の森
 人をのちよや作らる何よ。落路け舞人の多好落路
 ありが。面影を取去てり人の見かすゆもありとせよひ
 くれい。面影とちあがる馬よまき。西大宮ちりけ
 ゆく申の魁ごころの事なるふ。大路乃人かねん鬼乃
 晝中に馬よまきゆきごころいひのちりてねされさ
 ちんはせら落路てまこの鬼とちいりりりか。病



御書

して物乃風流財をほり布。金銀とものくかざれ
つ。負^{クガ}の者^カを母^カ母^カの^カと^カど^カど^カに^カ合^カを^カて^カさ^カが^カい^カは^カ勝
負^カの^カ間^カ言^カは^カは^カく^カ論^カと^カる^カ事^カも^カ妙^カや^カり^カま^カは
時^カど^カり^カみ^カや^カり^カた^カの^カ方^カより^カ道^カ衛^カ合^カ人^カ下^カ路^カ公^カ忠^カ其
く^カつ^カり^カく^カ盛^カを^カり^カが^カた^カは^カ競^カ馬^カの^カ將^カ束^カれ^カん^カく^カと
を^カ着^カと^カて^カ毛^カあ^カで^カり^カく^カ好^カ馬^カ。馬^カ負^カ美^カと^カけ^カく^カて
か^カど^カり^カき^カう^カ終^カよ^カと^カて^カ。方^カ屋^カ乃^カ南^カより^カる^カ場^カよ^カ出^カて^カ將^カの
肉^カは^カち^カり^カて^カ。鞍^カと^カ取^カる^カは^カく^カて^カま^カり^カ神^カの^カも^カ無^カ有^カ
也^カ。法^カ人^カと^カし^カを^カと^カん^カた^カ。ち^カり^カる^カあ^カり^カ右^カの^カ方^カ屋^カより^カむ^カは^カ師
乃^カま^カり^カく^カと^カて^カれ^カど^カり^カの^カめ^カ。冠^カと^カや^カく^カ。太^カの^カ競^カ馬^カの



